

移住コンシェルジュの
ぶらり鹿角散策
Vol.3



今回は、史跡尾去沢鉾山から坂を下り、尾去沢中学校まで散策してきました。移住コンシェルジュが見る尾去沢の魅力をお届けします。

尾去沢散策①
史跡尾去沢鉾山

言わずと知れた尾去沢鉾山。鉾山の発見は、奈良時代の和銅元年（708年）と伝えられており、昭和53年5月の閉山まで、なんと1200年以上の歴史がありました。鉾山の表面からは金や銀、深部からは銅の鉾石が多く採掘されており、時代とともに採掘量が増えていったといわれています。

鉾山労働者には社宅が提供され、1棟6軒ほどある長屋建ての建物に住んでいたそうです。現在でもその一部が残っており、まるで歴史ドラマに出てくるかのような建物で、とても貴重な建物だと感じました。

内田さん所有の鉾石



尾去沢散策ルート



尾去沢鉾山で働いていた内田 正男さんにインタビュー



Q: どのような仕事をしていましたか?
A: 地質課というところに所属し、午前中に坑内測定やボーリング調査を行いました。鉾石のサンプルなどを採取していました。鉾山の中に入るとほこりや煙などで、体が汚れてしまうので、昼休憩には、毎日風呂に入っていました。午後からは、採取したサンプルの整理作業を行っていました。仕事時間は、8時から15時までで、夕方には家に帰ることができました。
Q: 内田さんも社宅に住んでいたのですか?
A: 自宅が近くにあったので、長屋建ての社宅には住まず、自宅から鉾山に通っていました。実家は農家だったので、家に帰ると農作業を日が暮れるまで行っていました。

尾去沢散策②
山神社



鉾山から坂を下った中腹の市街地地区には「山神社」と呼ばれる神社があります。山神社は鉾山の繁栄や安全を祈願し、当初は、鉾山付近に建立されたそうです。その後、2回にわたる移動を経て現在の場所になったといえます。現在でも、尾去沢地区の守り神として、地域の方々に信仰されています。そんな歴史ある山神社に手を合わせました。

尾去沢散策③
石川菓子店



山神社から市街地を少し下ると、「石川菓子店」の看板が目に入りました。同店では、大直利と呼ばれる銘菓がイチオシのことで、お土産としても人気の品です。大直利とは、鉾山で「鉾石が多い場所」という意味があり、お餅の上にごっしりと敷き詰められたクルミがまるで鉾石のような一品です。

尾去沢散策④
尾去沢中学校

さらに坂を下っていくと、尾去沢中学校が見えてきました。同校は、平成22年から尾去沢鉾山のボランティアガイドを全校生徒が行うなど、鉾山とのつながりを大切にしていく学校です。校内には、ガイド練習のために、鉾山の説明場所を示した張り紙が貼ってあり、普段の生活から鉾山に関わる取り組みを行っています。



校舎エントランスホール天井

光る怪鳥伝説

尾去村の奥にある大森山から、光る怪鳥が現れ、村人は、毎晩飛び回る怪鳥を恐れ、怪鳥退治を天に向かって祈り続けた。ある日、怪鳥が姿を消し、不思議に思った村人が、山を調べてみると、そこには怪鳥が朱に染まり、息絶えていた。腹の中を開いてみると、金銀銅の鉾石がいっぱい入っていて、輝くばかりの美しさであった。

村長が「近年、夢で神さまから新山を開けとお告げをいただいたが、この怪鳥の死んだ場所こそ、神さまの言う新山に違いない。」と言うので、村人が山を掘ると、どこを掘っても光輝く金銀銅の鉾石を発見できたという。

この山は、のちに尾去沢金山と呼ばれ、全国に知られることとなった。尾去沢鉾山の歴史の深さに触れることができ、鉾山が尾去沢に住む方々にとって、とても貴重なことを実感しました。

これからも市外出身者の視点から、鹿角の魅力を発見し、たくさん発信していきたいと思えます。随時、フェイスブックに情報をアップしますので、ご覧ください。

政策企画課 鹿角ライフ促進班
☎ 30・0208

山神社の入り口には大きな銀色の鳥居があります。よく目にする赤い鳥居とは違う質感で、初めて見た瞬間に驚きました。鳥居を通ると「山神社」の歴史が感じられ、山神社が祀られている場所になります。

生徒の皆さんは、尾去沢鉾山博士。と言っても良いほど鉾山に詳しく、ボランティアガイドで毎年活躍しています。校舎のエントランスホールの天井には、鳥が描かれていました。なんで鳥が描かれているか聞いてみると、尾去沢鉾山にまつわる「光る怪鳥」の伝説があるんだ。